



嬭恋村【群馬県】 歴史文化基本構想

■策定年度：令和元年12月 ■人口：9,886人 ■市域面積：337.58km²
■担当課：総合政策課（令和元年12月現在）



嬭恋村には、縄文時代以来の歴史と豊かな自然を背景として先人が営んできた数々の文化遺産が残されている。本構想では、この地に暮らす我々の宝、歴史と文化の情報を可能な限り収集した。本村の誇るべき文化財を「守り・育て・伝える」べき大切なものとして次の世代へ引き継ぐために、その価値を再認識し、「歴史と自然観光の場」として整備するとともに、公開・活用へと繋げていくことを基本理念としている。

5 歴史文化を表す つのキーワード

天明三年の浅間山噴火、歴史災害からの復興、日本一の嬭恋高原
キャベツ、上州と信州・交流の地域史、地域の礎・昭和の遺産

課題

- ・文化財保護の担い手の高齢化と後継者不足
- ・指定文化財を含む文化財の再整理や一元的な保存管理

保存活用方針

- ・文化財の公開活用や観光振興連携
- ・歴史文化と景観資源を融合させた文化財群の創造
- ・民間団体、住民、行政の協働体制

保存活用のための取り組み

歴史災害からの復興を全国に誇る場所にする〈伝〉

発掘された旧鎌原村をはじめ、天明三年の浅間山大噴火による災害からの復興を、文化財を核にして情報発信できる場所にする。同時に浅間山北麓の生活は、火山の噴火による噴出物の上に成り立っており、それらは豊かな大地の恵みとして活かされていることを強く認識していく。



歴史文化と景観資源を融合させた文化財群〈守・伝〉

「キャベツ王国嬭恋」のブランド力の礎が、文化財の構成要素とどれだけ深くかかわっているかは、十分に認識されているとはいえない。この地に広がる高原野菜栽培の歴史と文化のストーリーは、「日本一」の栄冠を得て、すでに3世代目の手に移ろうとする中で、改めて見直していく。



景観資源の活用プロジェクト —ジオパークとの連携—〈育〉

～浅間山とともに未来へ～とのテーマをもつ「浅間山北麓ジオパーク」との連携をはかっていく。住民と未来を担う子ども達へと広くストーリーを伝えていくことを柱に据え、保全活動等をはじめとし、観光振興など様々な施策に対して、連携歩調をとり、住民や来訪者へ文化財の魅力を含めた意識を育て、共有していく。

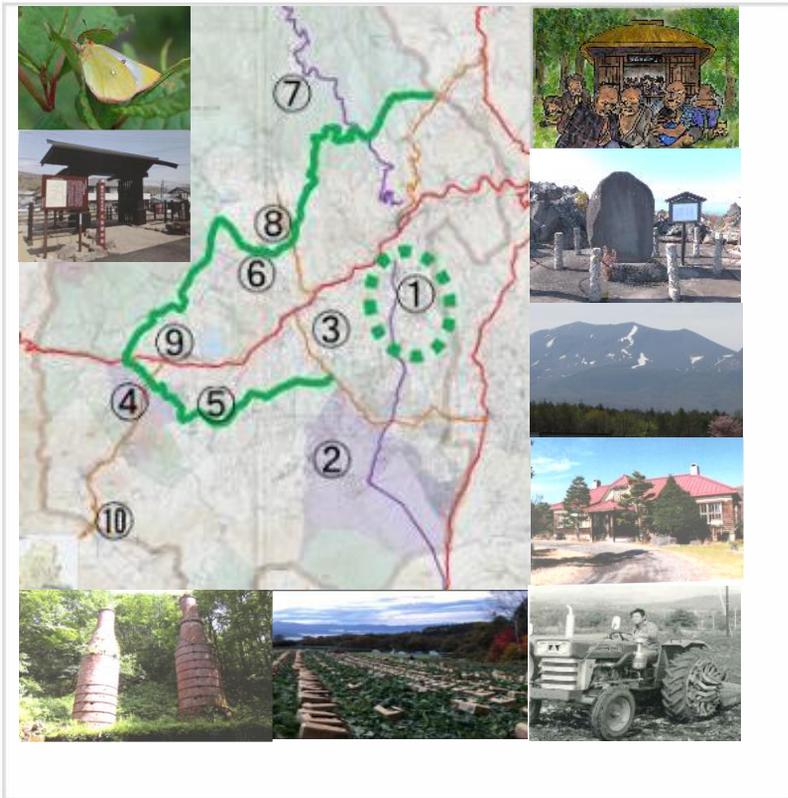


文化財を取巻く関係者間の協働体制〈守・育・伝〉

人口減少や高齢化がすすむ現状を踏まえた民間団体・地域住民と行政との協働体制づくりを目指す。継承すべき文化財の保存・活用を図っていくために、郷土史など行政の有する文化財への専門知識と地域交流により本村がもつ自然や伝承、食といった豊かな文化資源の継承を協働体制により確立していく。



俯瞰する2つの「文化と景観」



歴史災害からの復興と語り継ぎの文化が被災文化を生み出す鎌原村のストーリー（ストーリー①～③）

婦恋村を東西に結ぶ文化景観「パノラマライン」沿いのストーリー（ストーリー④～⑩）

*

鎌原観音堂の石段を「天明三年」の学びの出発地点ととらえる。

婦恋村を東西に結ぶ「パノラマライン」が、点在する昭和の生業や文化と景観を取り結ぶ。

ストーリー

- ①旧鎌原村の復興が生み出す歴史文化
- ②天明三年浅間山噴火と関連文化財
- ③浅間山を俯瞰する北麓の文化
- ④馬鈴薯から甘藍（玉菜）栽培へ
- ⑤高原野菜発展の礎
- ⑥本州の「北海道」・広がる高原野菜と文化景観
- ⑦昭和に花開いた鉱山資源
- ⑧浅間山は母なる山・婦恋の民俗文化
- ⑨信州との往来が織りなす地域色
- ⑩活躍するボランティアと天然記念物

策定後の成果（見込まれる効果）

① 村内外への新たな情報発信
歴史災害や生業からみる2つの大きな歴史的特徴や文化的景観の情報集約は、文化財施策を通じた観光促進、生涯学習における普及啓発、他市町村や大学機関等との連携といった村内外の交流をより一層深めていく期待を含んでいる。



浅間山熔岩樹型

② 協働体制による文化財保護の熟成
文化景観をはじめ、後世に残すべき歴史や文化の継承を地域住民の意識の醸成を通して創り出すことは、「持続」の質の向上を深めるのである。文化財の所有者・関係者と行政との協働体制を構築することは、体制の強化による相乗効果を生み、これまでの行政課題解決の糸口とする。



浅間山噴火大和讃

③ 文化財保存活用地域計画への展開
暮らしに根付いたモノとコトを広く「文化財」ととらえなおすことで、地域固有の文化財の魅力や地域の強みとして把握でき、単に保存という捉え方にとどまらず、地域の活性化や魅力発信の重要な要素として活用することにつながる。後世に残すべき文化財が地域住民に受け継がれる次のステップとして「地域計画」作成を推進する。



ストーリーを貫く浅間山北麓の暮らし